

軽金属学会特別功労賞

受賞者 小南一郎 君 財団法人軽金属奨学会理事長 昭和5年10月8日生(72才)



受賞理由

小南一郎君は、東洋アルミニウム(株)社長、会長を歴任のかたわら、昭和63年11月(勸)軽金属奨学会理事、平成6年11月同財団の理事長に就任して、常に本学会の活動を念頭において同財団の事業を遂行されてきた。特に最近では軽金属学会創立50周年記念事業や表彰制度の整備拡充に適切で十分な対応をされるとともに、一方では平成9年に「軽金属フォーラム」事業を新設し、先端的あるいは異分野の関連課題をテーマにとりあげ、軽金属研究者を刺激し、その将来の糧となるよう事業を展開し、年々充実好評を博している。

以上直接、間接を問わず、本学会への功績は絶大なものがあり、軽金属学会の功労賞の域を超えたものとの多数の意見をもとに、今回特に軽金属学会特別功労賞を設け、これを授与するものである。

第5回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展並びに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会(委員長 菅野幹宏)の審査を経て平成15年2月25日(火)開催の第52回理事会において慎重審議の結果、岡庭 茂君、杉浦泰夫君、福岡 潔君の3名の授賞を決定、(勸)軽金属学会第104回春期大会第1日目の5月17日(土)に姫路工業大学において表彰式を挙行了。

受賞者 岡庭 茂 君 日本軽金属株式会社参与 昭和18年5月4日生(59才)



受賞理由

岡庭 茂君は、金属加工部会押出分科会委員として、昭和58年に学会活動に参加した。現在、研究部長として押出技術、特に表面欠陥の発生機構解明を大学と企業との連携体制の下で進めている。サッシ建材メーカーと軽圧押出関係者との協調関係を構築した結果、現場を重視した系統的データの収集が定着した。平成9年から(株)日本アルミニウム協会・溶接構造用アルミニウム材料開発委員会に参加し、6082合金の開発に従事した。材料特性へのプロセスの重要性を紹介し、学会主催の軽金属基礎技術講座「押出」を執筆し、その講師を長期間担当した。また、研究開発面では押出技術を中心とした材料開発、ビレットとダイス品質の研究等に従事し、汎用6000系合金、6082合金の組織制御、Al-セラミックス複合材料、粉末合金の押出技術などの種々の研究成果を学会に発表するとともに、それらの実用化を達成した。粉末合金では量産化技術の実用化に対して小山田記念賞を受賞した。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第5回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 杉浦泰夫 君 株式会社浅沼技研技術顧問 昭和9年3月30日生(69才)



受賞理由

杉浦泰夫君は、旭テック(株)に在職中の永年にわたって、一貫してアルミニウム合金およびマグネシウム合金の casting 技術についての研究開発ならびに生産技術の統括に関連する職務に従事してきた。そして、社内の技術発展のみならず、日本の軽金属 casting 技術の発展に大きく貢献し、関連する研究開発の業績に対して軽金属論文賞を受賞している。一方、軽金属学会の運営ならびに活動にも永年にわたって参画し、本学会の発展に大きく貢献している。まず、本学会の評議員および春期大会の実行委員として学会の運営に貢献したほか、アルミニウム合金の高圧 casting 凝固部会の設立当初から委員として参画し、本学会の活発な活動に多大な貢献をしている。また、本学会東海支部では、永年理事および監事として支部行事の企画や支部の運営に積極的に携わり、東海支部の余勢拡張など活性化に大きく貢献し、現在も理事として東海支部運営の中心的役割を果たしている。以上のように、永年にわたって本学会の運営ならびに活動に様々な形で参画して、本学会の発展に貢献をした。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第5回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 福岡 潔 君 ハイドロアルミニウム・ジャパン株式会社技術顧問 昭和21年1月1日生(57才)



受賞理由

福岡 潔君は、永年にわたり電解コンデンサ用を中心とするアルミニウム箔に関する研究開発に従事し、多大な研究成果を挙げるとともに、積極的に学会発表も行い、当該分野の学問的な発展活性化のために大きく寄与した。軽金属学会の活動に関しては、平成9年~14年まで評議員として学会の発展のために積極的に活動し、その間、大会実行委員を延べ7回、プログラム編成委員を13回の長きにわたり務めた。ICAA-6実行委員、50周年記念事業委員、軽金属奨励賞選考委員、高橋記念賞選考委員としても学会運営に尽力している。また、東海支部においても平成7年~13年まで幹事、評議員を務め、支部運営にも積極的に参画しており、永年にわたり本学会の発展に貢献し、かつ軽金属にかかわる学問技術の進歩に尽力した。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第5回軽金属学会功労賞を贈る。